



デジタル技術で より良い社会を！

国際戦略局技術政策課
研究推進室長

高橋 文武

TAKAHASHI Fumitake

平成 13年 4月	総務省採用
	同 情報通信政策局技術政策課研究推進室
平成 15年 8月	同 大臣官房総務課
平成 16年 7月	同 総合通信基盤局国際部国際経済課アジア経済係長
平成 19年 6月	外務省在サンフランシスコ日本国総領事館領事
平成 22年 7月	総務省総合通信基盤局電波部電波環境課課長補佐
平成 23年 7月	同 情報通信国際戦略局情報通信政策課課長補佐
平成 25年 7月	同 大臣官房企画課課長補佐
平成 27年 8月	同 総合通信基盤局電波部移動通信課課長補佐
平成 29年 7月	同 総合通信基盤局電波部電波政策課電波利用料企画室課長補佐
平成 30年 8月	同 総合通信基盤局電波部電波政策課統括補佐
令和 2年 8月	同 情報流通行政局総務課調査官
令和 4年 6月	同 総合通信基盤局電波部電波政策課室長
令和 5年 7月	現職

デジタル技術の急速な進化

デジタル技術は、これまでも進化を続けてきましたが、特に最近10~20年の進化は目まぐるしく、デジタル技術で私たちの生活は大きく変わりました。例えば、携帯電話はスマートフォンに進化し、いつでもどこでもあらゆる情報をやり取りできるようになったり、通信環境や半導体技術が劇的に向上したことで、オンライン会議が当たり前に行われるようになるなど、場所にとらわれない新しい動き方も実現しました。

入省当時は、20年後にはテクノロジーの進化もピークになるので行政の仕事がなくなるのでは、と漠然と考えていましたが、技術の進化は私の想像を超えたものであり、全くの杞憂でした。モバイル技術は、衛星やHAPS等を取り込み地球上のどこでも通信可能なシステム(Beyond 5G)への進化しようするとともに、新たなコンテンツを創造できる「生成AI」が新たな社会基盤として登場するなど、情報通信を所管する総務省としてやるべき仕事は多くあります。

総務省の仕事の魅力

総務省の業務は多岐にわたりますが、担当者とし

て取り組むのはある分野の技術や制度となります。しかし、担当する技術や制度について、様々な関係者の意見を聞きながら、国内外の状況を俯瞰しつつ、我が国としてどう戦略的に取り組むのか、どう制度を作り上げていくのか、世の中の仕組みづくりに直接携わることができるのが総務省の仕事の大きな魅力だと思います。

私はこれまで、携帯電話の再割当制度の詳細検討や技術基準の策定、東日本大震災の復興支援、ICTを活用した街づくり、ドローンでの無線利用の推進などに取り組んできましたが、どの仕事もやりがいがあり、思い出深いものばかりでした。

現在のお仕事

現在は、少し未来の社会に目を向けて、これから実用化されるテクノロジーをターゲットに研究開発や社会実装に向けた取り組みを行っています。具体的には、「生成AI」の開発環境の整備、言葉の壁のない世界を実現する「多言語翻訳技術」、量子を活用した絶対に解読されない「量子暗号通信」、脳の仕組みを活用した「脳情報通信技術」、緻密な気象観測が可能な「リモートセンシング技術」など多岐にわたります。これらの技術が実現する未来に思いを馳せながら、日々の業務に取り組んでいます！

総務省は、世の中の仕組み作りに直接携わることができるやりがいのある職場です。若い皆さんと一緒に仕事ができることを期待しています。



講演会で説明する様子

コミュニケーションは社会の基盤

朝起きて家族と会話をする、学校で講義を聞き質問する、スポーツの試合でチームメイトとアイコンタクトをする…我々の生活では日々数え切れないほどのコミュニケーションを行っており、「コミュニケーション」は人間社会を形成する基盤と言えるものです。総務省は、情報通信の制度や技術政策を所管し、この「コミュニケーション」を支えています。

社会を動かす

私が現在携わっている放送分野では、2011年に地上テレビ放送のデジタル化(地デジ化)が概ね完了し、2018年に4K8K衛星放送が始まるなど着実に技術が進展しています。皆さんにとって「テレビ」と言えば、このデジタル放送が当たり前になっているかもしれませんが、私の幼少期はアナログテレビしかありませんでした。2010年頃に総務省で放送に携わっていた頃は、そんなことをする必要があるので、といった言説も聞こえていました。そういった声を聞きつつも、現在のようにデジタル化した訳ですが、結果としては、高画質化や周波数の利用効率

の向上など社会全体としては良い方向に進めることが出来たと言えるでしょう。

この時に限ったものではありませんが、政策を進める時には、様々な方面に多かれ少なかれ、そして良くも悪くも影響が生じます。行政官は、このような声を広く聞き、また、対話しつつ、社会全体にとって良い方向を考え、いわば社会の「ハブ」のような役割で社会を大きく動かすことができる。これが行政官の一つのやりがいだと考えています。

就職を考える皆様へ

冒頭申し上げたとおり情報通信技術は日進月歩で、新しい技術は、インフラとして皆さんの生活や様々な事業に急速に広がります。総務省では、この最先端の情報通信(コミュニケーション)技術を日々学んだり、また、情報通信技術は社会のあらゆる場面で利用されたりしていることから、幅広い関係者と対話(コミュニケーション)しながら、未来の社会を描いていくことが出来ます。

「コミュニケーション」は人間社会の基盤です。その「コミュニケーション」を皆さんのキャリアの中心にして、「コミュニケーション」でどのようにより良い社会を実現できるか、総務省と一緒に考えてみませんか。



家族との小旅行



『コミュニケーション』 を支える仕事

情報流通行政局放送技術課
課長補佐

羽多野 一磨

HATANO Kazuma

平成 18年 4月	総務省採用
	同 情報通信政策局技術政策課
平成 20年 4月	同 情報通信政策局放送技術課
平成 20年 7月	同 情報流通行政局放送技術課係長
平成 22年 7月	内閣官房情報通信技術(I T)担当室主査
平成 23年 3月	同 震災ボランティア連携室主査
平成 23年 9月	同 東日本大震災復興対策室主査
平成 24年 2月	復興庁統括官付参事官付主査
平成 24年 8月	総務省総合通信基盤局電波部電波政策課電波利用料企画室課長補佐
平成 26年 8月	同 情報通信国際戦略局通信規格課課長補佐
平成 27年 6月	外務省在シドニー日本国総領事館領事
平成 30年 8月	総務省総合通信基盤局電波部電波政策課国際周波数政策室課長補佐
令和 2年 8月	同 総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課課長補佐
令和 4年 7月	現職